

第 30 回気象講座「新しい気象」雑感

日本気象協会北海道支社 西山直樹

第 30 回気象講座を菊地勝弘北海道大学名誉教授、稲津将北海道大学理学研究院准教授を講師に迎え「水の雲、氷の雲、過冷却の雲」と題して、7 月 28 日に札幌市青少年科学館で開催しました。今回の気象講座は対象年齢を広げ、身近な道具を使う実験を合わせて行うことで、受講者の 3 分の 1 が小学生という中で実施しました。

菊地講師には、多数の雲や雲粒の写真を用いて、雲の分類や雲粒についてやさしく解説していただきました。受講者のアンケート結果からは、雲の分け方を十種雲形だけでなく、水・氷・過冷却に分けてあったのが印象的だったようです。

稲津講師には、「ペットボトルを使って雲を作る」実験の指導と解説をしていただきました。ペットボトルにポンプで空気を入れる回数や、ペットボトル内の水の有無という条件を変えて、受講者に記録をとりながら実験していただきました。繰り返し実験を行い、雲のでき方・消え方の観察を行ったことが子供にも大人にも好評だったようです。

今後も身近な話題を題材にサイエンスカフェの形に変えながら続けたいと思います。

最後に、実験室の手配や広報でお世話になった青少年科学館の関係者に感謝します。



雲の生成実験



受講風景(青少年科学館)